

県立結城第二高等学校自己評価表

No.1

目指す学校像	これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンリーワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とし、 1 個に応じた指導を通し、向上心を高め、自己実現を目指す学校 2 自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくめる学校 3 地域社会と連携し、いつでもだれでも学べる、地域に開かれた学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・自ら主体的に学習に取り組む姿勢が見られない生徒に対する指導。 ・学力格差のある生徒の集団の中での個に応じた指導方法の確立。 ・ICTを活用した教材を共有化及び授業準備等の支援の充実。 ・自己肯定感・自己有用感が見いだせず、物事に積極的に関わろうとしない生徒の自己啓発。 ・良好な人間関係づくりに対するサポート。 ・外部機関や地域との連携を通じた生徒の人間性の向上。 ・進路意識の向上と適切な勤労観や職業観の育成。 ・年次等と連携した進路ガイダンス等の充実。 ・基本的な学力を身につけさせるための各教科等との連携。 ・生徒育成の目標に基づいた、活発で円滑な学校行事の運営。 ・部活動の加入率の向上と活性化。 ・学級活動及びホームルーム活動を中心としてのキャリアパスポートを活用した系統化したキャリア教育の実施。 ・教職員の連携を強化し生徒理解の一層の促進。 ・教職員向けの研修会の実施、校外研修の積極的参加等による教育相談技術のスキルアップ。 ・外部機関とのより一層の連携。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動外部指導者、スクールサポートスタッフ等の外部人材のより一層の活用。 ・ワークライフバランスを意識した働き方の推進が必要。 ・校務支援システムを有効的な活用と業務の効率化。 ・各教材やツールを活用した継続的な生徒の自立を促すための取り組み。 ・職員間の情報の共有とキャリアパスポートの有効な活用方法の工夫。	主体的・意欲的学習態度の育成による基礎学力の向上と、考える力の育成	① 言語活動を取り入れた授業形態等の工夫改善に努める。 ② 集団の中で個に応じた指導を可能とするように、学習環境を整備し指導力を高める。 ③ 生徒が主体的・意欲的に学習に取り組めるような指導を実践する。 ④ ICTを活用し生徒が自己学力の伸長を確認し、学習意欲の向上や考える力の育成につながる指導を実践する。	B
	規範意識の醸成、コミュニケーション力の向上を図り、自律的生活習慣の確立及び社会貢献でできる豊かな人間性の育成	⑤ 自己肯定感を高め、自律的生活習慣を確立する等、健やかな成長の基礎形成を徹底する。 ⑥ 問題行動の早期発見に努め、関係機関との連携を深め、未然防止と早期解決に努める。 ⑦ 安全教育や情報モラル教育を推進する。 ⑧ 社会奉仕体験活動を充実させ、地域と連携した多様な活動を推進する。 ⑨ コミュニケーション力の向上や豊かな心育成とともに、規範意識を培うための取組を推進する。	B
	組織的な相談体制に基づく生徒の心理的な援助の促進	⑩ 研修会等を通して個々の教職員のスキルアップを図る。 ⑪ スクールカウンセラー、キャンパスエイド及び関係職員が連携協力し、支援体制の充実を図る。 ⑫ 各生徒の心身の健康や発達についての的確な把握に努め、必要に応じて校内および外部諸機関との連携により、適切な対応をとる。	A
	一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	⑬ 特別な教育的支援を必要とする生徒への理解と指導法の向上を図る。 ⑭ 学習上または生活上の困難に対応するための効果的な指導の工夫。 ⑮ 通級による指導では、「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、効果的に活用しながら一人一人の教育的ニーズに応じた指導をする。	A
	進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成と情報提供	⑯ キャリア教育を組織的に推進し、社会性や職業観を養う。 ⑰ 進路ガイダンスの充実や適切な進路情報を提供することで、進路意識を向上させる。 ⑱ 多様な生徒に対応した指導に取り組み、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	B
	より積極的な特別活動の広がり実践	⑲ 多くの生徒が参加できる学校行事を企画・運営する。 ⑳ 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性や積極性を引き出す。 ㉑ 特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心としてキャリア・パスポートを活用した活動を行い、系統的なキャリア教育を進め、生徒の自己理解、教員の生徒理解を深める。 ㉒ キャリアパスポートによって学習や生活の見通しを持たせることにより、目標の明確化と主体的継続的に取り組む態度を育成する。	B
	真に開かれた学校づくりと地域との連携の推進	㉓ 地域行事やボランティア活動への参加を推進するとともに、地域人材と連携を図り、協働して取り組む活動を充実させる。 ㉔ 学校設定科目での聴講生の受け入れや部活動等での地域交流を通し、相互の教育力を共有する。 ㉕ PTA活動の充実を図り、保護者との連携を深め生徒支援をより効果的なものとする。	A
	「働き方改革」と学校運営体制の充実	㉖ ワークライフバランスを意識した働き方を推進していく。 ㉗ 教科内・教科間における教材の共有や分掌間の情報共有を密にして、業務の省力化を図る。スクラップ・アンド・ビルドの考え方で慣習にとらわれず、業務を精選する。 ㉘ 「チーム学校」の実現に向け、スクールカウンセラー、部活動外部指導者、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフ等との連携を促進していく。	A

※ 評価基準 A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成されていない、D：達成されていない

三つの方針		具体的目標	評価	次年度への主な課題
「三つの方針」（スクールポリシー）	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーションポリシー）	これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンリーワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とした教育活動により次のような生徒の育成を目指します。 1 基礎学力を身につけ、向上心を高め、自己実現を目指す生徒 2 自己肯定感を高めながら、自他を理解・受容し、社会性が身についた生徒 3 地域を大切に考え、地域社会に主体的・協同的に取り組める生徒。	A	本校の生徒の実態について理解するとともに、育てたい生徒像は教員間で共有できている。教員間での情報共有を密にすることで、より細かい点での共通理解を図ることを目指す。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」	多様化する生徒の学習の形態を準備し、そのニーズに応えるとともに、生徒一人一人の自己理解、自己実現を促すために次のような教育活動を行います。 1 多彩な選択科目と少人数や習熟度を取り入れたわかりやすい授業を行います。 2 心のサポートを充実し、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動などにより、思いやりの心を育成します。 3 地域に開かれた学校を目指し、広い視野を備えた社会性と地域社会に貢献する姿勢を育てます。	B	個に応じた指導を展開するための教育課程や指導体制は構築されている。一方で生徒一人一人の自己理解や自己実現を促すまでには不十分な点もあり、その有効的な活用や実践については模索しなければならない。
	「入学者の受け入れに関する方針（アドミッションポリシー）」	お互いを大切にしなが学び合い、協力し合う学校を目指して、次のような生徒を募集します。 1 毎日の学習に誠実に取り組み基礎学力の定着に向けて努力しようとする生徒。 2 他者への思いやりの心を持ち、尊重しながら協力しようとする気持ちを持つ生徒。 3 地域社会に興味を持ち、社会貢献に目を向けることができる生徒。	A	本校のアドミッションポリシーは周囲の中学校等にも十分認識されてきた。今後もHPや学校説明会を含めた広報活動等には工夫が必要である。

No. 2					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	生徒の習熟度に応じた授業の実践	生徒の習熟度に応じた指示や発問を工夫するとともに、適切な補助教材を作成し、理解や達成感を高める授業を行う。②④	A	・ICT機器の活用。
		指導方法の工夫による学習意欲の喚起	生徒が主体的に取り組めるように教材を精選し、補助教材を作成するとともに、ICT機器を積極的に活用するなど指導の在り方を工夫し、理解や達成感を高め、学習意欲を喚起する。①③	B	
		基礎学力の向上	副教材の有効活用と漢字能力検定の利用により、基礎学力の向上を図る。②④	A	
	・地公歴	主体的意欲的態度の育成	ICTを積極的に活用し、意欲・関心を高める授業を進め、基礎的な知識の定着を図る。①④	B	・ICTをより一層活用し、多方面から授業資料を収集する。 ・現実社会で起こっている諸問題をよりリアルに提供することで、意欲・関心を喚起する。
		基礎学力の定着	現実社会の諸問題等を考えさせ、社会に適応できる一般常識や基礎学力を身に付けさせる。②③	B	
	数学	個に応じた指導	習熟度別授業において、個々の能力に応じた指導を実施する。机間指導をこまめに行うことで、個々の生徒に対応した指導を実践する。②③	A	・数Ⅰ以外の科目においても習熟度別で授業を展開し、個に応じた指導に努めることができた。 ・ICTの有効的に活用する方法を模索していく。
		基礎学力の定着	問題演習の時間を十分にとることで、学習内容の理解と定着を図るとともに、主体的に授業に参加する姿勢を育てる。③④	A	
		ICTを活用した授業づくり	ICTを活用した授業展開及び教材研究を行い、効果的な活用方法を検討する。④	B	
	理科	関心・意欲の向上	観察・実験を重視する等、自然体験の機会を積極的に設ける。その際、生徒の班編制は活動しやすいものとし、必要ときはチームティーチングを行う。①③	B	・実験・観察の相違・工夫 ・視聴覚教材の効果的な活用
		基礎学力の向上	教材を工夫し、主体性の向上を図る。②③	A	
			基礎的な学習内容についてテストを行い、理解度を調べると共に、基礎的な学力の伸長を図る。④	B	
			ICTを活用した授業づくり	ICTを活用した授業展開及び教材研究を行い、効果的な活用方法を検討する。④	
	保健体育	基礎体力の向上	毎時間の授業で生徒の能力に合った体力を高める運動を行なう。②③	B	・生徒の運動時間を確保し、体力の向上を図る。 ・科としての共通理解を図る。
		集団行動及び規律ある学校生活の確立	集合・整列・号令等の集団行動を通して、規律ある学校生活及び基本的生活習慣の確立を図る。⑤	A	
		学習意欲や関心を高める授業	パワーポイントや視聴覚教材を活用し、関心・意欲を高め、実生活において実践できる力をつけさせる。④	A	
	芸術	授業態度の確立	教室の利用、道具の準備やかたづけ等、ルールを守って授業に臨む態度を育てる。⑨	A	・優れた作品に触れる機会の確保。 ・基礎・基本的な技能の習得。
		基礎技術の習得と向上	生徒の技術力を向上させるためのサポートを常に心がける。②⑭	B	
		表現力の養成	芸術を通して自己を表現することにより自己実現ができるよう、表現力を育成する。③⑫	B	
		鑑賞能力の向上	すぐれた作品に触れる機会を増やし、身近に感じることができるようにする。③	C	
	英語	基礎学力の向上	生徒に応じたワークシートの作成やアクティビティの活用によって、授業内容の定着を図る。②③	A	・協働学習についてその手法や取り入れ方を工夫する（習熟度別他クラスとの合同授業等） ・ロイロノートの本格的な導入 ・新たな評価基準に照らし合わせた授業展開の工夫
		学習意欲の向上	家庭学習課題を適宜生徒に課し、学習習慣を定着させる。③④	B	
本校に適したCan-do（評価法）に改善を加え、生徒が自己評価を適切に行えるよう工夫する。③④			B		
資格取得への意欲を高められるよう、資格試験の内容を適切に授業に導入する。③⑬			B		
家庭	主体的なコミュニケーション能力の育成	協働学習を適切に授業に導入する。③④	B	・ICTを活用した授業や実習の方法を工夫し、さらに改善していく。	
	基礎知識・技術の向上	ICTを活用して、本校に適した英語によるコミュニケーション活動を実践する。④⑨	A		
		教科内容・教材の精選・工夫し、ICTを利用しながら、少人数による個に応じた指導を行う。②③	A		
		個々の生徒の進捗・達成度を把握し指導を行う。製作実習に関しては、完成までのプロセスを重要視し、指導を行う。②④	A		
	創造的・実践的態度の養成	技術検定を実施し、資格取得への意欲を高め、基礎知識や技術の向上を図る。③④	B		
		各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努めるとともに、生徒の指導に生かす。③⑭	B		
		家庭クラブ活動等、課題解決学習を積極的に取り入れ、生徒が生活の中で生かせる能力を養う。③⑯	B		
情報	指導方法の工夫と学習意欲の喚起	教科内容・教材の精選・工夫をし、情報社会において必要な基本的知識、モラル、マナーを身に付けるとともに、ICT機器の積極的・効果的な活用法を身に付けさせる。③④	B	・デジタルシチズンシップ教育は継続していく。 ・引き続き、検定の合格実績、特に2級以上の上級の合格率向上を目指す指導を行う。	
	基礎知識・技術の向上	スピード入力認定試験、ワープロ実務検定、情報処理技能検定を実施し、資格取得への意欲を高め、技術の向上を図る。①④	A		

※ 評価基準 A：達成できた，B：ほぼ達成できた，C：あまり達成されていない，D：達成されていない

教務	授業時間の確保	行事等の精査により、授業時間の確保に努める。	③ ⑭	A	A	・コロナによる休業等もあったが、オンライン授業等にも取り組み授業時間の確保に努めることができた。 ・Teamsの活用等により資料の電子化や業務の効率化が進んだ。 ・図書館の美化や整備に取り組み、図書館利用の活性化を推進できた。 ・BYODの有効活用については今後の課題である。また、次年度は視聴覚教材を集約して校内での共有を図りたい。 ・HPを含めた広報活動推進も今後検討したい。
	本校独自の教育課程の検討	年間指導計画に基づき、観点別評価をふまえたシラバス作成を支援する。	③ ④	A		
	ICT機器の有効活用	教員間の公開授業により、授業スキルの向上を図る。	① ④	A		
		BYODの積極的な活用を推進するとともに、効果的な利用について検証する。	③ ④	A		
	広報活動の改善、推進	アンケート等の電子化や情報共有システムを推進することで、業務の効率化を図る。	⑭ ⑮	A		
		魅力的なポスターや学校案内を作成するとともに、学校ホームページを活用した広報を推進する。	⑭ ⑮	B		
	図書活動の充実と読書習慣の推進	聴講生制度により、地域に開かれた学校を目指す。	⑧ ⑭	A		
		図書館内の美化や図書の配置・整備をし、図書館利用の活性化を図る。	③ ⑭	A		
		図書館利用のマナーを身に付けさせる。	② ⑨	B		
		生徒・教師のニーズに合わせた新刊図書・資料の充実を図る。	③ ⑤	A		
視聴覚教材の活用	図書館だよりを発刊するとともに、図書委員会の活動を活性化する。	④ ⑭	A	A		
生徒指導	生徒理解に基づく指導	視聴覚教材の充実と共有を図り、教育活動の様々な場面において活用する。	③ ⑮		B	
	自律的生活習慣の確立	アンケートや個別面談を始め、学校生活のあらゆる場面を利用して生徒理解に努める。	⑥ ⑨		B	
		生徒に関する情報の整理・共有化を推進し、いっそうの生徒理解を図る。	⑫ ⑮		B	
		個に応じた生徒指導を工夫・実践する。	② ⑭	B		
	安全教育の推進及び環境整備	年間を通した登校・下校指導により、個に応じた指導を行いつつ、規範意識の高揚を図る。	② ⑦	A		
		外部と連携した交通安全教室・自転車点検・日常の交通安全指導の実施によって、交通モラルを身に付けさせる。	⑦ ⑫	B		
		豊かな人間性の育成	外部と連携した携帯電話安全教室や防犯講話・平素からの情報モラルの指導によって、安全・適切なSNSの利用の仕方を身に付けさせる。	⑦ ⑮	B	
			年間を通した防犯パトロールや登下校指導等、生徒の安全・安心を守る取組を継続する。	⑥	B	
	地域との連携		関係機関や地域内学校との連携・協力体制を継続・発展させる。	⑥ ⑫	B	
	特別活動	ホームルーム活動及び学校行事の充実	地域で働く人や住民から「結城二高サポーター」として、生徒指導の協力を得る。	⑭ ⑮	B	
多くの生徒が参加できるようにホームルーム活動や学校行事の形態を工夫する。			⑭	A		
担任との連携を密にしなが、多くの生徒が参加できる三部合同の体育祭を企画・運営する。			⑭	B		
行事を活用することで、生徒の社会性及び主体性の育成を図る。			⑭ ⑮	A		
生徒会本部役員のリーダーシップを生かした学校行事にする。			③ ⑨	A		
部活動の充実		キャリア・パスポートを活用した活動を行い、生徒の自己理解、教員の生徒理解を深める。	⑭	B		
		多くの生徒が部活動に参加できるように、各部顧問・体育科等と連携を密にし、活動場所、活動時間等を確保する。	⑭	A		
		部活動の活動計画を明確化することにより、活性化を図る。	⑭	B		
		部活動の充実	多くの生徒が部活動に参加できるように、各部顧問・体育科等と連携を密にし、活動場所、活動時間等を確保する。	⑭	A	
			部活動の活動計画を明確化することにより、活性化を図る。	⑭	B	

※ 評価基準 A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成されていない、D：達成されていない

進路指導	職業観・勤労観の育成	キャリア教育を計画的に進め、社会的・職業的自立に必要な能力を養成する。関係諸機関と連携し、インターンシップを実施する。	⑬ ⑮	B	B	・進路指導室及び資料室内の資料の整理整頓 ・卒業後を見据えた、より自立を促していく進路指導の在り方の模索
	進路意識の確立	修了までを見通した進路講話・進路ガイダンスを、各年次と協力して計画・実施し、卒業後の生活をどのようなものにするか、考えさせる。	③ ⑮	A		
	学力の向上	教務・年次と連携した課外授業を実施し、上級学校進学に必要な学力を養成するとともに、推薦入試や就職試験対策としての面接指導を計画的に実施する。	③ ⑮	B		
	志望進路の把握	進路希望調査を実施して、生徒の志望進路の把握に努めるとともに、各年次と連携して適切な指導を行う。	③ ⑮	A		
	資料・情報の収集整理	生徒や職員が必要とする資料や情報を収集・作成し、提供する。	⑮	B		
保健厚生	生徒が学習するための環境整備と安全教育	生活範囲の環境美化に努めることを通して、環境美化意識を養う。	⑤	A	A	・コロナ禍で以前より生徒の心身の状態が不安定になっていることもあり、さらに教職員や関係機関と連携していきたい。
		安全教育を通して、危機を回避する意識を高める。	⑤ ⑦	A		
	心身の健康促進	心身の健康の状態を的確に把握し、自主的に健康を保持増進する意識を持たせる。	⑤	A		
		健康講話を通じて、正しい知識を身に付けさせ、健康で安全な生活を送れる力を養う。	⑤ ⑦	A		
		教職員や関係諸機関と連携をとり、生徒の心身の健康状態について共通理解を持ち、適切に対応できるよう努める。	⑩ ⑪	B		
渉外	保護者と教職員の協力と連携	保護者と教職員が連携し、円滑なPTA活動が行えるよう、クラス担任を中心に積極的に保護者に働きかける。	⑮	A	B	・コロナの状況による対応を検討しながら、保護者との連携に努める。 ・ICTの活用による業務のスリム化に努め、ミス軽減につなげる。
	PTA活動の活発化	各専門委員会、理事会等の活発化のため、本部役員と連絡を密にし、保護者の参加率の向上に努める。	⑮	B		
	同窓会と連携協力	同窓会活動が円滑に行われるよう、連携協力に努める。	⑮	B		
コーディネーター	組織的な相談体制作り、個に応じた対応の強化	カウンセリングや特別支援教育等に関する研修会を実施し、個々の教職員の専門性向上を図る。	⑩	C	B	・コロナの状況を見て研修会等を検討していく。 ・担任、年次、関係職員とのコンサルテーションを行う。 ・職員全体で共通理解を図り、具体的な支援につなげていきたい。
		スクールカウンセラー、キャンパスエイド及び関係職員が連携協力し、支援体制の充実を図る。	⑪ ⑮	B		
		生徒の心身の健康の状態を的確に把握できるように各年次・部との連携を密にし、さらに関係機関とも連携しながら、個に応じた適切な対応を図る。	⑫	B		
	一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	特別な教育的支援を必要とする生徒への理解と指導の充実を図り、特に配慮を要する生徒に関しては、「通級による指導」を実施して生徒が自己理解を深めながら、課題克服に向けて学習に取り組めるように指導する。	⑬ ⑮	B	B	・通級での取り組みを通常学級等に般化できるように担任や年次、各教科等との連携を図っていきたい。

※ 評価基準 A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成されていない、D：達成されていない

1 年次	自己理解と自己肯定感の向上	学校生活の様々な場面における経験・体験を成長へとつなげるとともに、自己理解と自尊感情の向上を図る。	⑧ ㉑	A	A	・年次会を通して生徒個々の情報の共有を図る。 ・授業や行事等とおして進路実現に向け、将来について考える習慣を身につけていく。
		進路ガイダンスの実施や進路情報の提供により、興味・関心・適性等の自己理解を促す。	⑭ ⑮	A		
		生徒・保護者の特性や問題について、教員間での情報共有を密にするとともに、支援方法に配慮しながら関わる。	⑫ ⑬	A		
	基本的な生活習慣の確立と社会性の向上	登下校指導において、挨拶・身だしなみ・礼儀正しい態度の育成を図る。	⑨ ⑫	B		
		生徒とともに美化活動に取り組み、快適な学習環境を提供する。	⑧ ⑬	A		
		情報モラル教育を推進し、情報化社会における態度の育成を図る。	③ ⑩	B		
2 年次	基礎学力の向上	関係職員と連携し、生徒理解に努め、個に応じた適切な学習支援を行う。	② ⑬	B	B	・LHRを活用して、補修的な学習を行い基礎学力の向上を図ることができた。 ・総合的な探究の時間を活用して、進路に対する意識を高めることができた。 ・身だしなみや挨拶などの態度を育成することができた。
		ホームルームの中で学習時間を確保し、基礎学力の向上を図る。	③ ④	B		
		個に応じた指導により、各生徒の自尊感情や自己肯定感を育成するとともに、向上心を高めようとする態度の育成を図る。	② ⑤	A		
	自他理解と社会性の伸長	修学旅行等の学校行事を通して、自らを育むとともに、他者を理解・受容する態度の育成を図る。	⑧ ⑫	B		
		日々の生活を通して、周囲への配慮を怠らず、礼儀作法や規範意識に基づいて他者と関わろうとする態度の育成を図る。	⑥ ⑨	B		
		道徳プラスを通して、道徳的な判断力、実践意欲、態度及び習慣の育成を図る。	③ ⑨	B		
3 年次	進路実現に向けた学力の向上と学習の習慣づけ	進路指導部と連携して効果的な進路指導を模索するとともに、人権に配慮して個に応じた適切な進路目標を設定させる。	⑭ ⑮	B	B	・生徒の進路決定に対しては、他部署・外部機関との連携をより一層強化していく。 ・生徒の主体的活動の支援と必要なサポートを可能な限り個に応じて実施する。 ・将来を考えてのマナー指導等においては、より一層平素からの指導を大事にしていく。 ・保護者とのコミュニケーションが難しいケースが増えてきたが、保護者との協力体制を維持していくよう務める。
		ホームルーム等で学習時間を確保することで基礎学力を向上させるとともに、学習の習慣づけを図る。	③ ④	B		
		進路指導部、特別支援教育コーディネーター及び外部機関と連携するとともに、生徒や保護者との個別面談を充実させ、個々に応じた適切な進路の決定を促す。	⑫ ⑮	A		
	個に応じた進路指導と進路の実現を目指す	進路実現に必要な指導（面接練習、小論文指導、模擬試験の分析やフィードバック、基礎学力の強化）を綿密に行い、生徒が主体的に活動できるよう支援する。	③ ㉑	A		
		安易な進路選択にならないよう、進路意識の向上や自己責任感の醸成を図る。	⑩ ⑮	C		
		社会人として必要な基礎的な素養（礼儀作法、言葉遣い、社会人としてのマナー等）を平素から指導する。	⑤ ⑨	B		
4 年次	社会人としての基本的な素養を身につけさせる	様々な活動を通して、保護者と協力しながら豊かな社会性を育むとともに良き社会人としての在り方を考えさせる。	⑧ ⑫	C	B	・生徒個々に対応した指導の充実を図る。 ・長期欠席にならない指導。
		進路指導部、特別支援教育コーディネーター及び外部機関等と連携しながら、生徒や保護者にとって適切な進路選択及び目標実現を目指すことができるように多方面から支援する。	⑫ ⑮	A		
		高校生活を通して、自己理解を深めるとともに自己管理能力を向上させることで自立した社会人の基礎を醸成する。	⑤ ⑭	B		

※ 評価基準 A：達成できた，B：ほぼ達成できた，C：あまり達成されていない，D：達成されていない